

各基本目標・基本計画の進捗状況について

基本目標1 地域全体がつながり、支え合うまちづくり

1 基本目標1「地域全体がつながり、支え合うまちづくり」の総評

基本目標1の各取組については、Aが8項目、Bが24項目、Cが10項目、Dが1項目という結果でした。令和3年度評価と比較すると、自己評価が向上している項目が8項目、同様の項目が35項目、下降している項目はありませんでした。

全体的に令和3年度と同様な評価が多い中、特に向上している項目が多かったのは基本計画(1) **地域を支える住民活動・団体活動の促進**であり、「ボランティア団体の支援」の取組では、ボランティア活動者を増やすために講座の開催に力を入れたことで講座参加者が増加し、評価がC評価からB評価に向上しました。「地域団体ネットワーク形成のコーディネート」の取組では、令和3年度と同様にB評価ではあったものの、コミュニティーワーカーの担当地区にて住民同士が地域課題の解決に向けて話し合う機会を持つことができ、その中で、福祉のまちづくりプランの策定に向けて支援することができました。(福祉のまちづくりプランの推進)

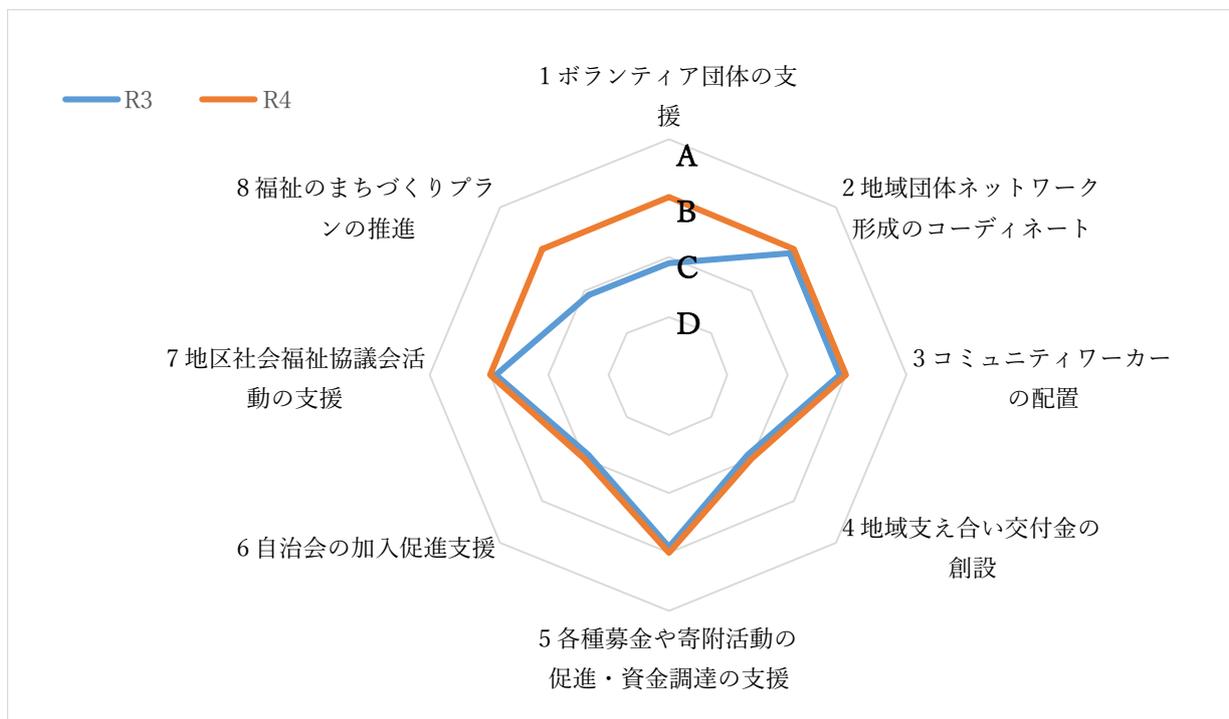
基本計画(2) **官民協働・福祉以外の分野との協働**における、「大学その他各種学校との連携」の取組では、令和3年度と同様にB評価であったものの、各課が策定している計画や事業について適宜、知見を得るなど、引き続き連携を図りました。令和4年度は、コロナ禍であったため、オンラインでの協議もありましたが、今後も継続して、地域福祉に関する知見を得るために、大学その他各種学校と連携を図っていく予定です。

「社会福祉法人連絡会の充実」の取組では、令和3年度と同様にA評価でした。この取組では、令和4年度より、社会福祉法人の持つ施設、備品、専門職である人材を地域活動に提供する「地域お助けネットワークよなご」事業を開始しました。今後、社会福祉法人の地域貢献が更に広がるように、連絡会による活動の充実を図っていくと同時に、福祉以外の分野の事業者や企業に対し、積極的に地域福祉活動にかかわりを持てるように働きかけていく予定です。

基本計画(7) **誰もが活躍できる環境の整備**では、評価はC評価であったものの、「合理的配慮の提供」の取組においては、障がい者のみならず、高齢者や妊婦等、配慮が必要と思われる、あらゆる人に対して合理的配慮を提供する「あいサポーター」を養成するための研修を5回実施しました。今後は、研修回数を増やすとともに、研修講師の資格を持つ職員をさらに増やしていくことが必要です。また、「芸術・スポーツの場面での活躍の場の提供」の取組では評価はC評価でした。令和4年度は芸術活動の発表のイベントを開催し、市民との交流の場を設けましたが、多くの市民を巻き込むまでには至っておらず、今後は、芸術活動だけではなく、スポーツやその他日常の活動を個人の特性に合わせて発表する機会を提供できるように、更なる検討が必要です。

2 各基本計画の進捗状況について

1 - (1) 地域を支える住民活動・団体活動の促進



【自己評価の評価方法】

- A：取組の指標を達成した。または、顕著な取組がある。
- B：計画期間内に指標を達成見込みである。概ね順調に進んでいる。
- C：指標を一部達成している。または、取組は行っているが不十分である。
- D：未着手。

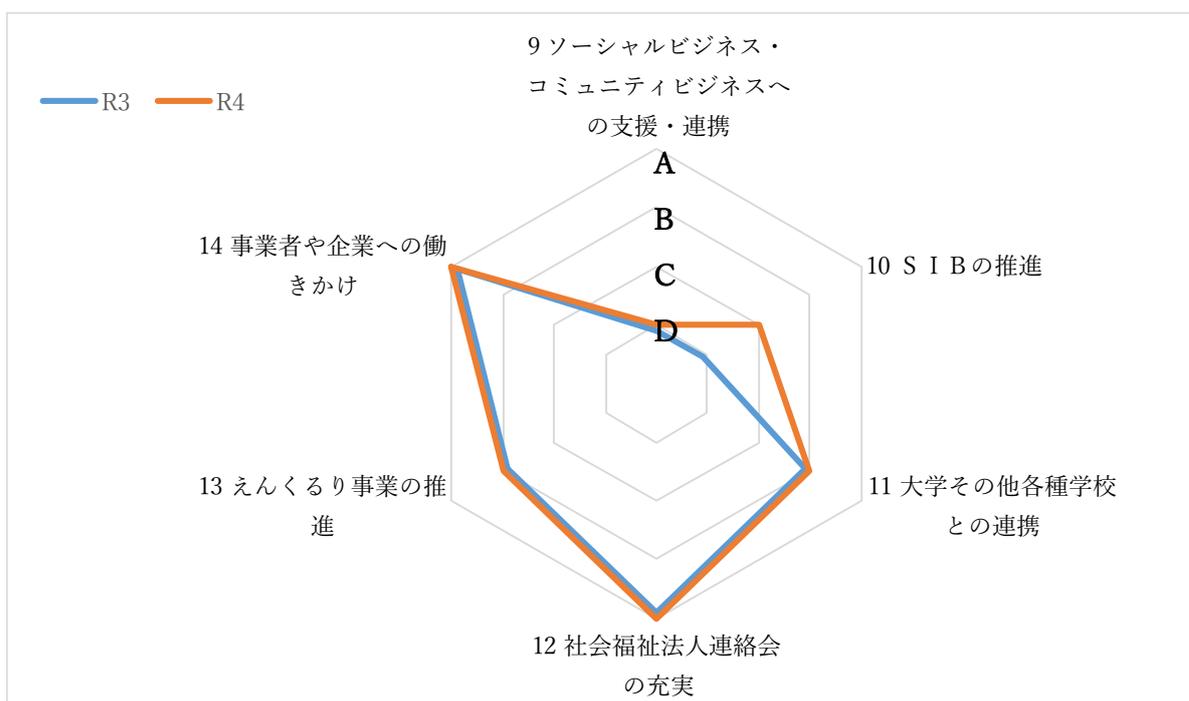
【総評】

良かった点としては、「ボランティア団体の支援」の取組と「福祉のまちづくりプラン」の取組で評価がC評価からB評価へ向上しました。「ボランティア団体の支援」の取組では、ボランティア活動者向け講座及び初心者向け講座の参加者が増えたことにより、市民のボランティア意識が向上していると考えられます。「福祉のまちづくりプラン」の取組では、プラン策定着手地区19地区の指標に対し、13地区がプラン策定済みです。策定数は増えていますが、指標を達成するためには策定の手法を見直し、よりスムーズに策定できるよう改善が必要です。

「地域支え合い交付金の創設」の取組では、令和4年度は地域福祉活動を含めた地域まちづくり活動のための補助金・交付金を新たに創設することができましたが、より多くの地区で活用していただけるよう継続して検討が必要です。

「自治会の加入促進支援」の取組では、宅地建物取引業協会西部支部との意見交換など自治会加入を促すための新たな取組を行いました。自治会加入率の向上には今後もより一層の取組が必要です。その他の項目は令和3年度と同様の評価ですが、今後も様々な住民活動に対して支援を継続することにより、より多くの方がやりがいや充実感を持って活動ができるよう働きかけていきます。

1 - (2) 官民協働・福祉以外の分野との協働



【自己評価の評価方法】

- A：取組の指標を達成した。または、顕著な取組がある。
- B：計画期間内に指標を達成見込みである。概ね順調に進んでいる。
- C：指標を一部達成している。または、取組は行っているが不十分である。
- D：未着手。

【総評】

良かった点としては、「SIBの推進」の取組において、令和4年度から新たにフレイル対策事業において導入について検証を行うことができたところです。今後のSIBを導入した取組の実施に向けて引き続き、検討を進めていきます。

「大学その他各種学校との連携」の取組では、各課が策定している計画や事業について適宜、知見を得るなど、引き続き、連携を図りました。

「社会福祉法人連絡会の充実」の取組では、社会福祉法人による公益的な取組を推進するために令和4年度より「地域お助けネットワークよなご」事業を開始しました。地域課題や住民ニーズに対して社会福祉法人が貢献できるよう、連絡会による活動の充実を図っていきます。

今後、検討が必要な取組として、「ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスへの支援・連携」の取組です。令和4年度は、この取組について実施することができませんでした。実践事例の情報収集から始めていく予定です。

1 - (3) 地域福祉・住民交流の拠点の整備



【自己評価の評価方法】

- A：取組の指標を達成した。または、顕著な取組がある。
- B：計画期間内に指標を達成見込みである。概ね順調に進んでいる。
- C：指標を一部達成している。または、取組は行っているが不十分である。
- D：未着手。

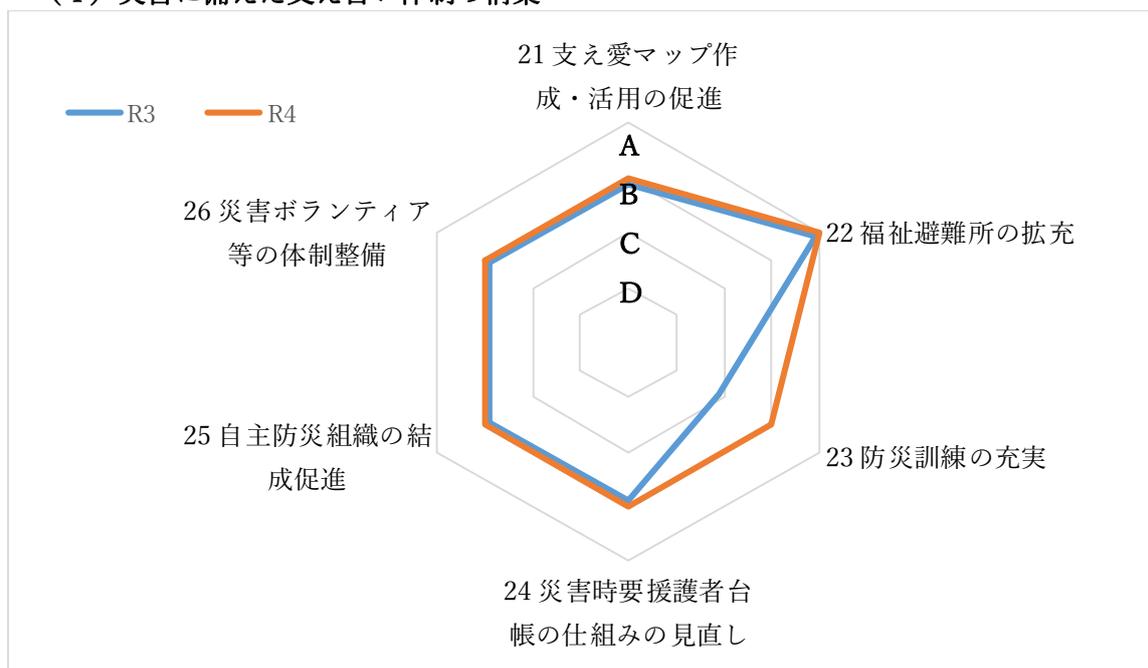
【総評】

良かったところは、「地域の居場所づくりの推進」の取組において、評価が令和4年度はB評価に向上したところです。子ども食堂運営者同士の情報交換会を毎月実施することができ、米子市の補助金を活用して新たに子ども食堂が開設されるなど広がりを見せています。また、ふれあい・いきいきサロン活動では、令和3年度に比べて3サロン増加しています。サロン登録基準を緩和し、少人数のサロンでも登録しやすくしたことの効果が出ていると考えられます。

「公民館の有効活用」の取組については、キーボックスの設置やWi-Fi環境の整備など施設整備を順次実施しました。更に、地域の方が利用しやすい施設になるよう検証が必要です。

「空き家や空店舗の活用促進」の取組については、相談はあるものの、有効活用に至るケースが少なく、空き家が活用されるには多くの課題があります。

1 - (4) 災害に備えた支え合い体制の構築



【自己評価の評価方法】

- A：取組の指標を達成した。または、顕著な取組がある。
- B：計画期間内に指標を達成見込みである。概ね順調に進んでいる。
- C：指標を一部達成している。または、取組は行っているが不十分である。
- D：未着手。

【総評】

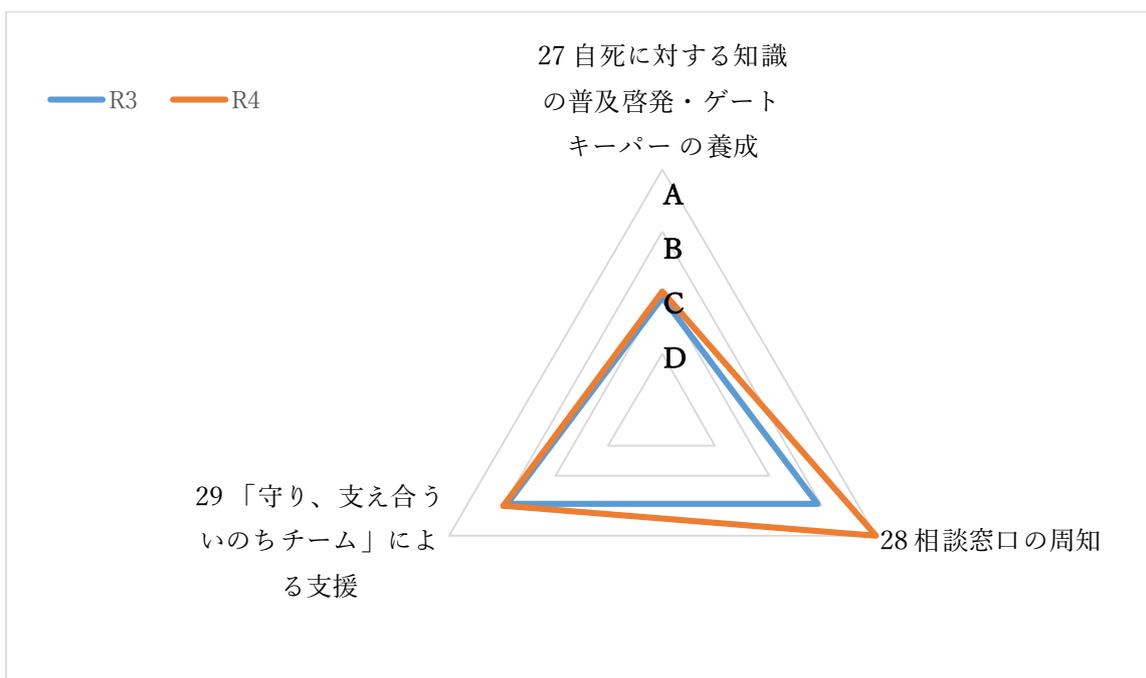
良かった点としては、「福祉避難所の拡充」の取組において、指標を達成しており、「防災訓練の充実」の取組においても、福祉避難所の開設訓練を実施することができました。今後も、より実効性の高い訓練となるよう取組を進めていきます。

「支え愛マップ作成・活用の促進」取組では、支え愛マップ作成自治会数が順調に増えています。災害時の避難支援体制について住民の意識は高く、作成に関する自治会からの相談件数も増加しています。

「災害ボランティア等の体制整備」の取組では、令和3年度に米子市と市社協との2者協定、米子市と市社協、米子青年会議所による3者協定を締結し、災害ボランティアセンター運営に関する体制を整えています。令和4年度は、米子市ボランティア協議会と災害時の協力体制や具体的な依頼の流れについて確認しました。

「災害時要援護者台帳の仕組みの見直し」の取組について、関係各課で連携して新たな制度設計を進めています。事業の実施に向けてはまだ課題もあり、今後も力を入れて進めていく必要があります。

1 - (5) 自死に追い込まれない社会づくり



【自己評価の評価方法】

- A：取組の指標を達成した。または、顕著な取組がある。
- B：計画期間内に指標を達成見込みである。概ね順調に進んでいる。
- C：指標を一部達成している。または、取組は行っているが不十分である。
- D：未着手。

【総評】

良かった点としては、「相談窓口の周知」の取組において、評価がB評価からA評価に向上したところです。令和4年度から若年層や就労世代に向けて年齢層に応じた情報提供を行うことができました。今後も様々な手法で周知を行うよう検討していきます。

「自死に対する知識の普及啓発・ゲートキーパーの養成」の取組では、ゲートキーパー養成のための動画を作成するなど、新たな試みを行った一方で公民館での講座の実施は開催回数が伸びませんでした。地域での講座の推進やゲートキーパーの養成を今後どのように進めていくか検証が必要です。

「守り、支え合ういのちチーム」による支援では、心の相談件数が令和3年度と比較して倍近く増えています。他部署からのつなぎや地域活動の中で相談を受ける場面もあり、今後もより他機関や他部署と連携して支援を行います。

1 - (6) 地域課題の発見・共有・協働の仕組みづくり



【自己評価の評価方法】

- A：取組の指標を達成した。または、顕著な取組がある。
- B：計画期間内に指標を達成見込みである。概ね順調に進んでいる。
- C：指標を一部達成している。または、取組は行っているが不十分である。
- D：未着手。

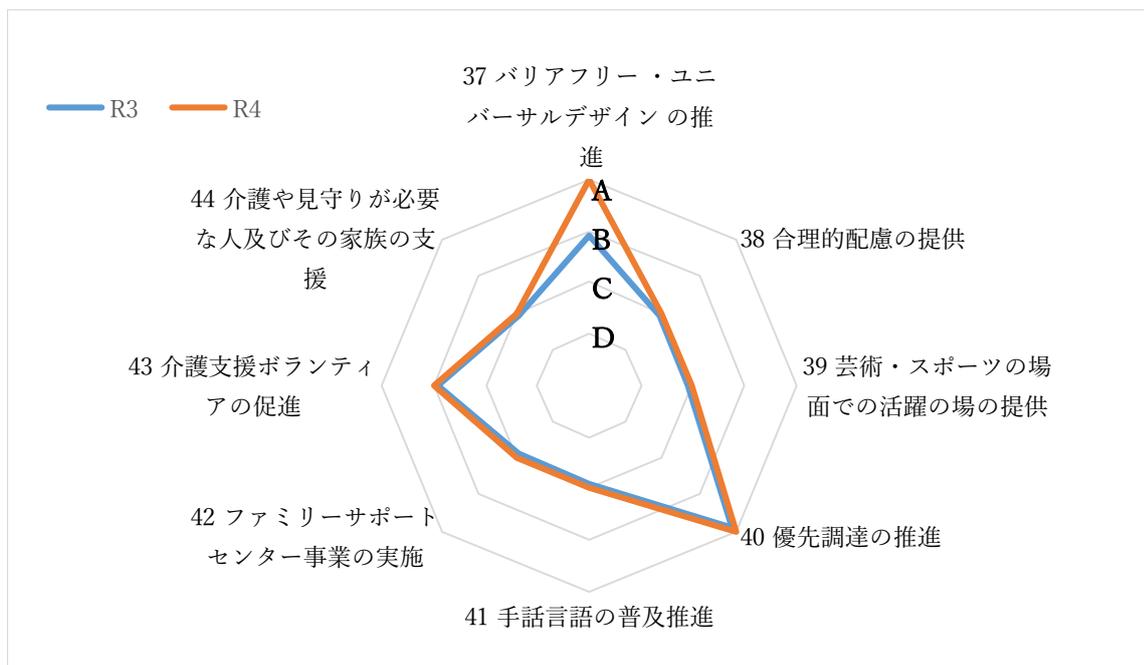
【総評】

良かった点としては、「民生委員・児童委員と地域の見守り活動の連携促進」の評価は、令和3年度と同様の評価であったものの、民生委員・児童委員と在宅福祉員による連絡会の開催が27地区まで増加しました。連絡会で情報共有することにより、地区内における見守り活動の体制づくりを進めました。

「個人情報の取扱いの検討」の取組については、令和3年度に引き続きA評価であり、重層的支援会議において会議の構成員に守秘義務を設け多機関での情報共有を実施しました。

「事業者による見守り活動の推進」の取組について、中山間集落見守り活動協定を鳥取県との共同により27件結ぶことができているので指標は達成していますが、引き続き事業者が異変に気づいた際には速やかに連携がとれる体制の促進をしていく必要があります。

1 - (7) 誰もが活躍できる環境の整備



【自己評価の評価方法】

- A：取組の指標を達成した。または、顕著な取組がある。
- B：計画期間内に指標を達成見込みである。概ね順調に進んでいる。
- C：指標を一部達成している。または、取組は行っているが不十分である。
- D：未着手。

【総評】

良かった点としては、「バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進」の取組では、整備費用補助施設が目標数達成となり、A評価に向上したところです。引き続き既存建築物への補助を継続するとともに、現在実施できていない歩道未設置箇所の整備などを進めていく必要があります。

「手話言語の普及推進」の取組について、手話言語条例に基づく施策の検証ができておらず、取組や環境整備の充実をどのように進めていくかが課題です。

「介護や見守りが必要な人及びその家族の支援」の取組では、認知症サポーター養成講座やオレンジカフェがコロナ禍で思うように開催できず、指標達成には遠い現状です。

「ファミリーサポートセンター事業の実施」の取組では、依頼会員数は微増となり活動回数も回復傾向にありますが、援助会員数が伸び悩んでいます。援助会員の不足により、既登録援助会員への負担が増えていることが課題です。

「合理的配慮の提供」の取組では、あいサポーターの研修受講者は一定程度保っているものの、新規講師の育成に課題があります。

「芸術・スポーツの場面で活躍の場の提供」の取組では、令和4年度は、アート展の開催を行いました。芸術の分野以外のイベントは開催されておらず、多くの市民を巻き込むまでには至っていないため、更なる検討が必要です。